



教授 Vitaly Klyuev

概要

○検索結果 約858,000件!?

ウェブ上の膨大な量の情報は単純な探し方しかできない大部分のウェブユーザにとっては簡単には利用できないことが多い。利便性、実用性を向上させるためには検索を改善する必要があり、かつ、不慣れなユーザが一般的な検索エンジンにより得られる膨大な量の情報をうまく取り扱うための新しいインテリジェント・ツールが必要になる。

○ねらいは検索結果のコンパクト化

本研究では検索結果の分類・要約法を設計し、インターネットサービスプロバイダのサーバ上で動くウェブブラウザ用のアプリケーションを作成する。これらで得られた検索結果を分析し、結果をエンドユーザに提示することにより手作業での情報分析の手間の削減を狙うものである。

実用化の可能性

○俗悪コンテンツ拒絶も可能

我々のツールの潜在的なユーザの一つはインターネットサービスプロバイダである。サーバ上で動作し、ユーザが一般的な検索エンジンを用いて情報を探すのを支援する。つまり、エンドユーザに提示される前に検索結果を分類・要約するのである。これによりユーザに提示される情報量は大きく削減される。二つ目の潜在的なユーザは図書館や学校などの子供や生徒に対してインターネットアクセスを提供する公的機関である。彼らを性や自殺、薬物などのコンテンツから守ることができる。

UBICからのメッセージ

○この技術が実用化されれば検索の効率が格段と向上することは明らかです。

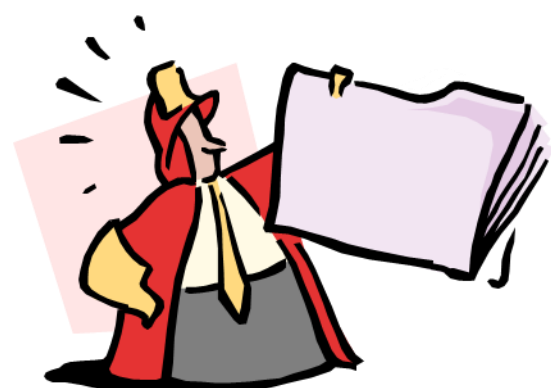
○さらに、一般ユーザ向けのインターネットプロバイダ、小中高等学校や図書館のような公共機関などにとっては、子供を有害なコンテンツから守ることが出来るなど、実用性の点で重要性が高いと思われます。

研究概要図



858,000件
見る気もない

検索結果の
分類・要約



あった!